

## 2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名：山畑信博 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原一興 主 査 名：角田誠
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>日本における木造建築は、過去から現在につながる歴史性はいままでもなく、現在では持続可能な社会を支えるエコロジカルな建築として再認識されており、今後の社会基盤を構成する重要な要素となっている。</p> <p>本小委員会では、このような木造建築を多角的に捉えて現状認識を行い、今後の方向性を見出してゆく。そのテーマは、1) 木造建築における新技術や構法開発の情報収集、2) 在来および伝統木造建築の構法史・性能の再評価と技術研究、3) 木構造の研究者との連携・共同研究あるいは研究の情報交換、4) アジアを中心とする海外の木造建築構法に関する情報収集、5) 持続可能な社会における木造建築のあり方に関する研究である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12 年度：震災復興応急仮設住宅に関する調査、木造建築見学会、</li> <li>・ 13 年度：東南アジアの木造建築・茅葺き屋根建物に関する研究、日本の木造住宅の現状に関する研究会</li> <li>・ 14 年度：最近の木造建築関連の動向把握、木造住宅の更新手法に関する研究会（スイスの山村を例として）</li> <li>・ 15 年度：応急仮設住宅のその後の動向と課題に関する研究会、伝統的木造住宅の省エネルギー構法に関する研究会</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：山畑信博 (東北芸術工科大学)、幹事：堀江亨 (日本大学)、金子晋也 (札幌市立大学)、委員：河合直人 (工学院大学)、後藤治 (工学院大学)、小林久高 (島根大学)、権藤智之 (首都大学東京)、左海冬彦 (建築研究所)、杉本健一 (森林総合研究所)、樋口貴彦 (飯田市歴史研究所)、福濱嘉宏 (福濱嘉宏建築事務所)、藤田香織 (東京大学)、松留慎一郎 (職業能力開発総合大学校)、源愛日児 (武蔵野美術大学)、吉田倬郎 (工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2015 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
<b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 昨今の環境事情を踏まえ、伝統木造建築において省エネ化をいかに進めてゆくかについて、発表・議論を行い、研究・設計における課題と方向性を見出すことができた。 2. ウィーン工科大学教授のクラウス・ツベルガー氏を招いて、西欧と東洋の木造建築の架構の技術についての講演会を行い、今後の木造建築研究に関して <b>有意義な議論・成果を得た</b> 。
<b>委員会活動の問題点・課題</b>	1. 新構法と伝統構法を同時に扱っているが、研究の範囲が広いので、それらをいかにしてまとめてゆくかが課題である <b>WG</b> の設置も検討する必要がある。 2. 勤務先が遠方の委員が多く、積極的な出席を望むことが困難となった。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。